

第42回八雲町青年問題研究集会実施要項

1 開催にあたって

近年、世界では戦争、紛争が各地で発生し、人類にとって最も大切な「平和」が守られない中、日本においても周辺国との関係など懸念されており、今後、世界がどうなっていくのか誰にもわからない状況です。

昨年も全国各地で豪雨や地震など自然災害が起り、改めて自分の身を守り、地域の防災力の向上のために行動することの大切さを実感した1年でもありました。

また、物価高騰により日常生活で苦しいと感じることが増えたほか、人口減少により労働力の不足や地域の祭りやイベントの開催が困難になるなど、様々な問題が身近に起きています。その中で、八雲町は、合併20周年を迎える、次の時代に向けて、新たなスタートを切りました。

さて、私たちを取り巻く社会を振り返ってみると、生活の中でIT化が急速に進み、SNSなどでは、1つのミス、1つの失言を多くの人が非難する場面を目にするが増え、いつも誰かの粗探しをする、不安をあおるという風潮が強まっているのではないかと思います。むしろ困難な状況の時こそ、人と人がつながって、互いに協力し、支え合うことが大切だと思います。

そして、これまで八雲で培ってきた社会教育の考え方や行動こそ、今必要なチカラではないでしょうか。

八雲町青年問題研究集会では、仕事や人間関係、地域の問題など、青年を取り巻く日々の生活、青年活動で感じたことや考えていることなどを仲間と率直に語り合うを通じて多様な価値観に触れるとともに、自分自身を見つめ直し、これから先のより良い人生、より良い地域づくりにつなげていくことを目的として開催します。

2 テーマ

「新しい自分・社会への一歩を踏み出そう！！」

3 スローガン

- ①自分の想いを素直に話そう
- ②相手の想いを受け止めよう
- ③青研集会で得た想いを未来へ活かそう

4 期 日：令和8年3月6日（金）・7日（土）

5 会 場：八雲町公民館

6 主 催：八雲町教育委員会

7 主 管：八雲町青年問題研究集会実行委員会

- 8 参加対象：青年並びに青年の生き方に関心のある人（町外の方も参加可能）
9 参加費：無料ですが、2日目の昼食の斡旋を希望する方は500円がかかります。

10 内容

（1）記念講演 「若者としてこの地に生きる」
講 師 小林 平造 氏（学びと文化、地域生活研究所 理事長）

（2）分科会 青研集会のメインで、参加者の自己紹介を中心にテーマとの関わりを語り合うものです。（人数は参加者一人一人が主人公になれるように司会者・助言者を含めて10名程度とします）

①くらし

くらしは仕事と生活だけで成り立っているわけではなく、住んでいる地域も関わっていると思います。今自分が住んでいる地域に対して悩みや想いを語り合い、より良いくらしに繋がるきっかけにしましょう。

②地域文化

八雲山車行列や各地域の祭りは町や地域を盛り上げる大事な八雲の地域文化です。これからも続けていくために祭りや地域文化に対する想いや考えを語り合いましょう。

（3）全体会・決意表明

11 日程

令和8年3月6日（金）	18時30分	受付開始
	19時00分～19時10分	開会行事
	19時10分～21時00分	記念講演
	21時00分～22時00分	意見交流（希望者のみ）
3月7日（土）	9時30分～15時30分	分科会
	15時30分～16時00分	全体会・決意表明

12 参加申し込み

2月27日（金）までに社会教育課へお申し込みください。
なお、2日目の分科会にも参加される方は、社会教育課（公民館TEL 0137-63-3131）へ、参加申込書（自己紹介カード）に必要事項を記入し、レポート（任意）を添えてお申し込みください。（資料集を作る関係で締め切り厳守でお願いします。）

13 その他

（1）分科会参加者にはレポート提出を期待します。レポートは当日の話し合いをスムーズに進めると同時に、自分の考えをきちんとまとめ、自分のことを周りのメンバーに正しく理解してもらえるためにも必要です。書き方は、各自生き方を振り返り、自分

の考え方や人生観が変わったというできごとを中心に、現在抱えている問題点を整理し、その解決を図るにはどうしたらよいのかということを自分の考えと言葉でまとめるようにしましょう。なお、レポートについては青研集会を運動としてとらえているために、準備段階でも点検しながらより具体性を持った内容にしておきます。

- (2) 分科会参加者には事前に資料集（レポート・自己紹介カード・各種資料集）を配布する予定です。
- (3) 分科会の司会者は、内容を深めるために主管団体（関係団体）あるいはメンバーの日常生活を理解しているメンバーなどとします。
- (4) 助言者は青年の団体活動の意義を正しく理解し、青年と共に自分も成長しようという姿勢を持ち、地域づくりに関わっている人とします。
- (5) 青研集会の成果を今後の青年団体活動、地域づくりに活かすためにも、語り合いだけで終わらせるのではなく、具体的な取り組みを明らかにしていきます。